

タイトル…『汐製菓会社の新作10マ
シユマロ1』

登場人物…

- ・ 汐（30代）… 汐製菓会社社長。「面白
きことも無き世を面白く」をモットーに
奇想天外な菓子商品を発案する。快
活な性格。
- ・ 塩田（30代）… 汐の秘書の女性。真面
目で心配性な性格。汐の発想にいつも
振り回される。実は大のお菓子好きで
あり、その為に製菓会社に就職。

シーン… 汐製菓会社 会議室

（オフィスの賑やかな音がバックグラウンドで流
れる。汐はホワイトボードの前でアイデアを熱
心に説明中。塩田はメモを取るふりをしながら、
少し不安げに汐を見つめている。）

汐…（熱弁しながら）さあ！次の大ヒット商品はこれだ！天井味、かつ井味、そして親子井味のマシユマロ！これぞ革命だ！

塩田…（驚いて）社長…それって本当にお菓子なんですか？どれもお米とソース、肉のイメージしか浮かばないんですけど…。

汐…（ニヤリと笑って）それが良いんだ、塩田くん！みんな、甘いものには飽き飽きしてるんだよ。新しい味覚の体験が求められているんだ！

塩田…でも、天井とマシユマロを一緒に考える人なんて…。お客様が困惑しませんか？

汐…（自信満々に）困惑は、好奇心の母だよ。新しいことを試さなきゃ、世の中は変わらない！

塩田…（ため息をつきながら）わかりました…。でも、試作を作るのは私ですね…。

シーン②：汐製菓会社 キッチン

（塩田が真剣な表情でキッチンで試作を行う。ベーカーズ帽を被り、エプロン姿で材料を混ぜている。汐が厨房に入ってくる。）

汐…（楽しそうに）どうだい、塩田くん？天井味マシユマロの進捗は？

塩田…（真剣な顔で）社長、これは…見た目は普通のマシユマロですが、匂いが…。

汐…（興味津々でマシユマロを嗅ぐ）ああ、これは確かに…タレの香りだ！完璧だよ！

塩田…（恐る恐る）あの、社長…これを本当に人前に出すんですか？試食会とか…考えてないんですか？

汐…（大きくうなずき）もちろん！それが次のステップだ！

塩田…（不安げに）どなたに試食してもらおう
んですか？社員の皆さんは…ちょっと抵抗が
あるかも…。

汐…ふふふ、安心しなさい。ちょうど良い機会
があるんだ。来週は国際食品博覧会だろ
う？あそこで試食を行うんだ！

塩田…（驚いて）国際食品博覧会！？そんな
大きなイベントで…本当に大丈夫なんです
か？

汐…（自信満々に）大丈夫、問題ない。斬新
なアイデアは、いつだって最初は驚かれるもの
だ！

シーン③ 国際食品博覧会 会場

（博覧会の大きな会場。汐製菓のブースには
「新作マシユマロ 試食」の大きな看板が掲げ

られている。多くの人がブースを訪れるが、皆戸惑った表情をしている。

汐…（ブースに立ち、笑顔で来場者に呼びかける）皆さん、新しい味覚体験はいかがですか？天井味、かつ井味、親子井味のマシユマロ！お試しください！

観客…（おそるおそる）あの…本当に天井味なんですか？

汐…（元気よく）もちろんです！これまでの常識を覆す、新感覚のマシユマロですよ！

観客…（半信半疑で一口食べる）…え？最初は甘い…と思ったら、突然タレの味が…。え、これって本当に天井のタレ？なんだか不思議な感じですよ。

観客…（興味津々で）かつ井味を試してみますね。（食べて驚いた表情）うわっ、サクサク感がないのに、確にかつ井の味がする！で

も、マシユマロの柔らかさとどうも合わない気が…いや、でもなんかクセになるかも？

観客 ③：（親子丼味を手に取り、思い切って一口）…これは、すごい。鶏肉の風味が口の中に広がるのに、食感ふわふわのマシユマロ。こんな組み合わせ、初めてです。なんだか食べてるうちに、これもありかもって思えてくる…不思議ですね。

塩田…（ブースの隅で心配そうに）うまくいってる…？意外と受け入れられてる…のかも？

汐…（満足そうに）見たかね、塩田くん！私たちのマシユマロは、世界を驚かせる力があるんだ！

シーン④ 汐製菓会社 会議室

（汐と塩田が会議室に戻り、食品博覧会の反響について話し合っている。）

汐…（興奮気味に）いやあ、あの反応は予想以上だったね！次は量産化に向けて動こうか。

塩田…（冷静に）確かに、興味を引いたのは間違いないですけど…社長、実際に商品化するには、もう少し慎重になった方が…。

汐…（笑いながら）塩田くん、慎重さは時に必要だが、挑戦なくして成功はない。これはビッグなヒット商品になる！

塩田…（諦めたように微笑んで）わかりました…。じゃあ、次のステップに進みましょう。でも、せめて試作をもう少し改良させてください。

汐…（大きくうなずいて）よし、任せた！私は次のアイデアを考えながら、君の努力を見守ってるよ。

塩田…（苦笑いしながら）社長のアイデアが、
次もこんなに大胆じゃないことを祈ります…。

シーン5: エピローグ

（数週間後、商品化されたマシユマロのパッケージが映る。「汐製菓 新感覚マシユマロシリーズ」）

ナレーション…そして、汐製菓の新作マシユマロは、国内外で話題を呼び、大ヒット商品となった。人々はその奇抜なアイデアに驚きながらも、その独特な味に魅了され、汐製菓は一躍有名企業となったのだった。

（塩田がオフィスの窓から外を見ながら、小さく笑っている。）

塩田…（独り言で）社長の無茶なアイデアも、結局は成功に繋がるんですね…。次はど

んな挑戦が待っているのか、ちょっとだけ楽しみです。

（汐がオフィスに入ってくる。）

汐…（元気よく）塩田くん！次の新作は、ビ―フシチュー味のマシュマロだ！どうだい？

塩田…（ため息をついて）またですか…でも、それも面白いかもしれませんね。

汐…（大笑いしながら）そうだろう！面白いことをどんどんやっっていこう！

（エンドロールが流れる。背景には汐製菓のロゴと新作マシュマロのパッケージが映し出される。）

終わり